

今回の病院の実力は、動脈にできる病気を治療する「血管外科」を取り上げた。中でも大動脈は、その名の通り、全身に血液を送る幹にあたる。心臓からいったん上方方向に伸び、おなかへ向かうステッキのような形をしている。

人工血管挿入 大幅に増加

そこで生じる病気は命に関わる。

一覧表には、2016年に行われた腹部大動脈瘤と急性大動脈解離の治療件数を掲載した。

腹部大動脈瘤は、おなかを通る大動脈にこぶができる病気で破裂すると命に関わる。直径5センチ以上になると破裂の危険性が高まるため、治療対象となる。

医療機関名	腹部大動脈瘤		急性大動脈解離	
	人工血管置換術 (件)	ステントグラフト 内挿術 (件)	人工血管置換術 (件)	ステントグラフト 内挿術 (件)
新潟				
立川総合	24	16	27	1
新潟大	0	46	11	8
富山				
県立中央	3	46	13	1
厚生連高岡	12	0	3	0

血管内治療は、脚の付け根に数センチの切れ込みを入れるだけで、体の負担が軽いのが特長。かつては手術が主流だったが、血管内治療が飛躍的に増えている。

ただし、留置したステント

グラフトがずれるなどして、再びこぶが大きくなる恐れもある。定期的な検査が欠かせない。

急性大動脈解離は、大動脈の壁の中が裂けてしまう病気で突然死を引き起こす恐れがある。だが、適切な治療が行われれば救命率は9割に達している。腹部大動脈瘤と同様、手術や血管内治療が行われる。

こぶ除去 開腹手術が確実

立川総合病院
心臓血管外科
浅見冬樹 医長 41



担の小さい血管内治療が普及しているが、こぶを取り除く開腹手術の方が治療は確実だ。

血管の壁に裂け目ができると急性大動脈解離は、胸や背中が急激に痛むのが基本的な症状。ただ、脳卒中のような症状が出るなど例外も多く、診断が難しいこともある。

心臓に近い「上行大動脈」で発症した場合は、基本的に胸を切り開いて緊急手術をする。一方、患部の場所や性質によって緊急性がないと判断できれば、手術をせず、保存的に経過をみることもある。

腹部大動脈瘤も急性大動脈解離も、その原因ははっきりと解明されていない。高齢者や高血圧の人のほか、若くても太り気味の人などが発症しやすい傾向があるようなので、日頃から血圧や生活習慣などに気を配ってほしい。

当院では8人の心臓血管外科医が治療を担当している。他の医療機関から紹介を受けるなどした、重症の患者を多く受け入れている。

当院では治療に開腹手術と血管内治療の両方を採用しており、患者の年齢や体力、患部の形状などを考慮して、手術方法を決める。最近では

次回は11月5日「めまい」の予定です。